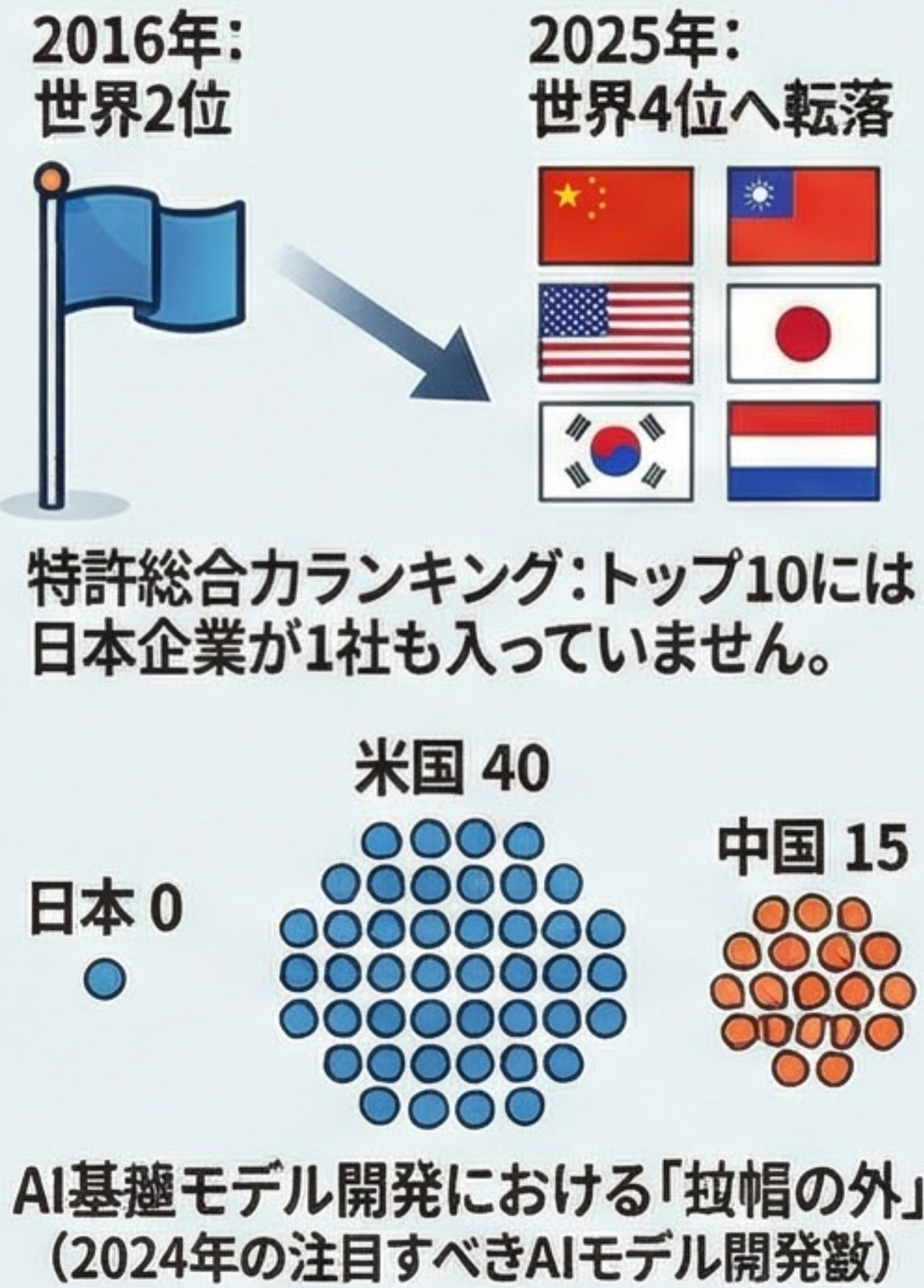
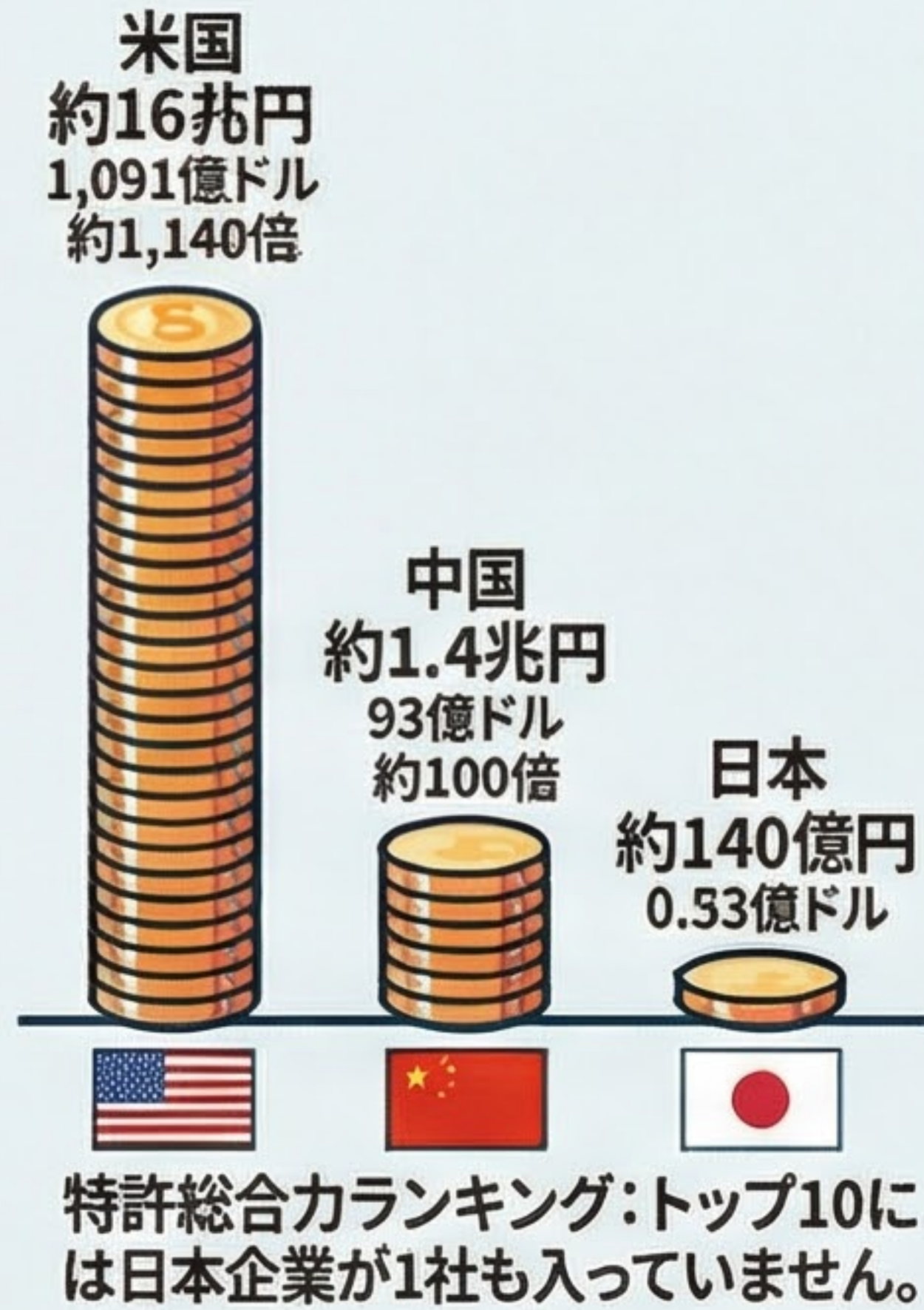


# フィジカルAI：日本の「最後の大逆転」ロードマップ

日本のフィジカルAIにおける危機と、ハードウェアの強みを活かした再興戦略

## 【危機】データが示す日本の「敗北」



## 【勝ち筋】日本が生き残るための3つの処方箋

世界標準の総：NVIDIA, OpenAI等

1. 「脳」は世界標準を利用し、「身体」との統合で勝つ  
自前でのAIモデル情報に回動せず、優れた「脳」を日本の総品質なハードウェアにいかにより早く組合するかに活力します。

2. シミュレーションと現場データのプラットフォーム化  
日本の進みである現場の高品質データを活用し、擬空間での学習と業性界を繋ぐ「Sim-to-Real」のエコシステムを構築します。

3. 課題先進国としての社会実装実績を作る  
少子高齢化による労働力不足を背景に、介護・物流・建設現場でのロボット導入事例を世界に先駆けて積み上げ、ビジネスモデルを確立します。

仮想空間学習

実世界

## 【現状】デジタルから物理世界へ：フィジカルAIの到来

「自動化」から「自律化」への進化

従来の厳密なプログラムによる動きではなく、曖昧な指示を解釈し、未知の直観に自適応する「観業・思考・行動」のサイクルがフィジカルAIの本質です。

2026年：社会実装元年の幕開け

米国（テスラ、Figure AI）や中国（Unitree）がヒューマノイドの重産を開始し、工場の組立ラインでの高証実績が本質移動しています。

## 【日本の武器】圧倒的な「身体（ハードウェア）」の優位性

